

第40回講演会 開催報告書

1. 概要

開催日時 2023年11月9日(木) 17:30~19:00
開催場所 会場：ホテルグランテラス富山 4階 瑞雲
参加者 講演会：35名 意見交換会：18名

2. プログラム

17:30~17:35 開会あいさつ 富山県支部 支部長 市森 友明
17:35~18:05 講演 1「実務における地質地盤情報の確度の課題」
講師：三和ボーリング(株) 地盤調査部 取締役 杉山 茂久氏
18:05~19:00 講演 2「近年の風水害と対策・対応」
講師：富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科
准教授 井ノ口 宗成 氏
19:00~19:05 閉会あいさつ 富山県支部幹事 櫻井 幹郎
司会：富山県支部幹事 事業委員長 山中 久生

3. 開催概要

今回の講演会は2つの題目について、講演をいただいた。



写真1 講演会風景



写真2 杉山氏講演風景



写真3 井ノ口氏講演風景



写真4 意見交換会風景

講演1「実務における地質地盤情報の確度の課題」

杉山氏による講演では、火山岩および堆積軟岩を対象とした実務における失敗例を通じて、設計・施工・維持管理への地質地盤情報の引継ぎの課題・教訓について紹介をいただいた。これまでの業務経験を通じて認識している地質地盤情報の課題としては、直接的なデータは「点」の情報として扱うことが重要で、異なる施設管理者間の情報共有が必要で、さらに維持管理に活かすためには柱状図に記載しきれない情報のデータベース化が必要ではないかということであった。

講演2「近年の風水害と対策・対応」

井ノ口氏による講演では、近年の風水害では、雨の降り方が変わりつつあり、被災の状況も変わってきており、その対応に混乱が生じているのが現状で、その実態を紹介しながら、流域治水の重要性を再確認し、特に情報技術が貢献できる可能性について紹介をいただいた。近年の災害発生事例からもこれまでの治水では限界があることを覚悟すべきであり、行政の防災部局は土木業界との連携が必要であり、そのために研究者をうまく活用することが必要であるとのことであった。

4. 参加者アンケート（回答者 23 名、66%の回答）

（1）回答者の状況

参加者の年代としてはある程度均等な状況であったが、50代が約39%と最も多い。

会員（正会員）が約6割と多いが、会員外から約4割と比較的が多くなっている。

専門分野は建設部門が大半を占めている。

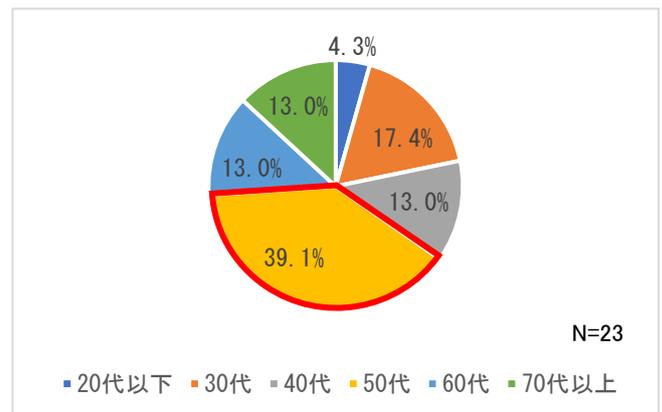


図1 アンケート回答年代

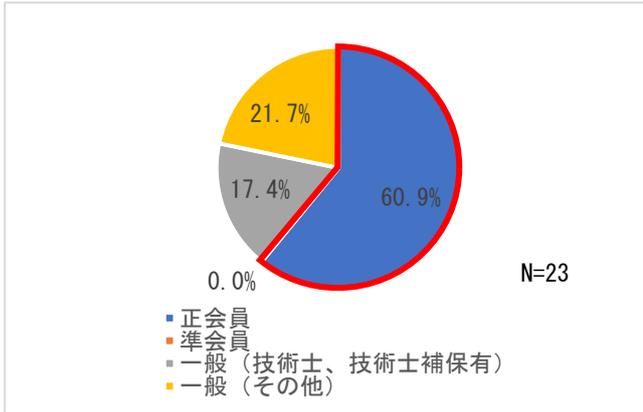


図2 参加者の入会状況

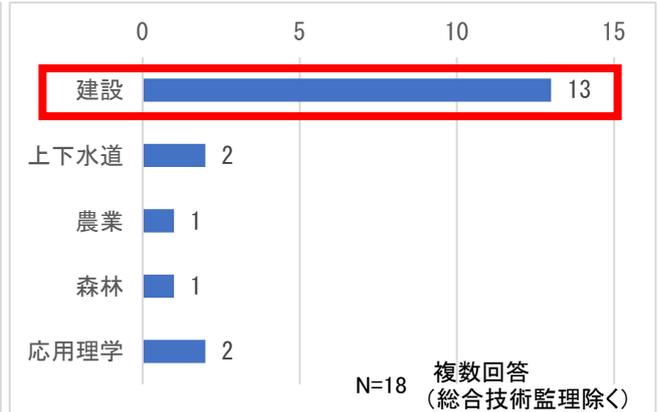


図3 専門分野
(※総合技術監理は除く)

(2) 講演会参加のきっかけと動機

講演会参加のきっかけは「富山県支部からのメール」が多くを占めており、参加の動機としては「講演会のテーマに興味があった」が多く見られる。

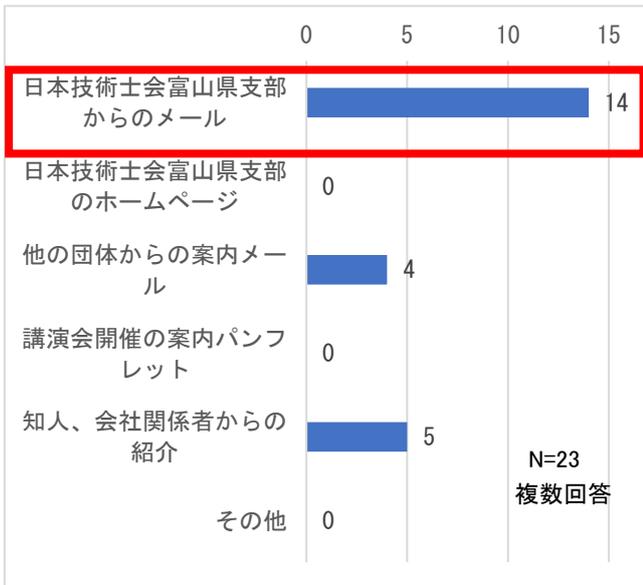


図4 参加のきっかけ

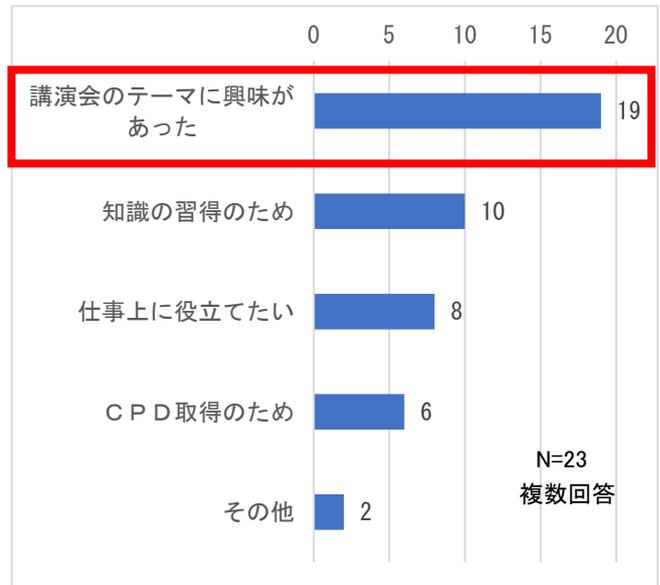


図5 参加の動機

(3) 講演会の満足度

講演会の満足度は満足であるが約78%と高かった。5点満点換算で平均点が4.78点であった。

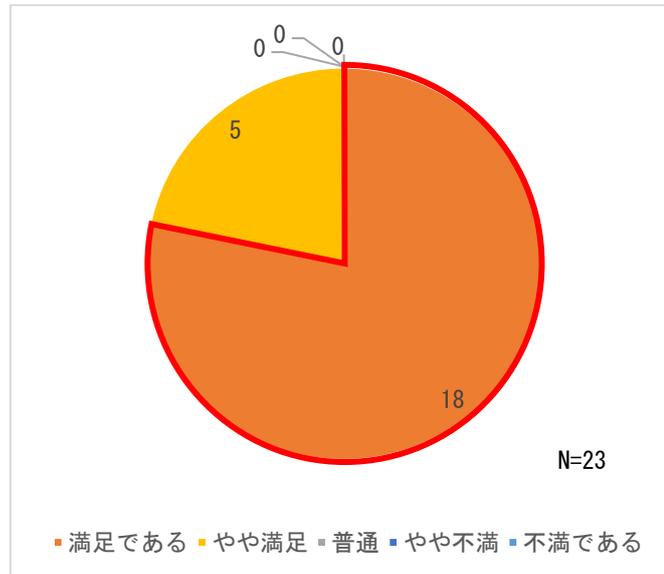


図6 講演会の満足度

(4) 具体的な評価に関する意見

●講演会全般について

30代	各技術者の視点、行政、大学等の状況等、把握することができた。改めて、仕事上での考え方、コミュニケーションを意識して取り組みたいと思いました。
60代	具体的な事例が多く、とても参考になった。
50代	日頃社内では聞けない話を聞いたので良かった。
50代	専門的に高度な内容素晴らしかった。もう少し分かりやすくかみ砕いて話をしていただければよかった。

●杉山氏の講演について

40代	杉山様の話は非常に実務的かつ現場的で興味深かった。
30代	杉山講師の時間がもっとあれば良かった。
70代以上	事例研究は参考になった。
50代	杉山さんの講演は失敗事象として、また技術者の考え方としてよくわかる内容であった。

●井ノ口氏の講演について

40代	井ノ口先生の話は、これからの防災のあり方について深く考えさせられた。
50代	農業、気象、災害を担当しており、興味あり出席した。水田浸水の実態把握に非常に役立つ知見を得られた。
70代以上	災害対応の在り方として、参考になった。
50代	井ノ口さんの講演は、多角的な視点で裏側の話もあり、非常に面白かった。土木の横の連携というのは、大きな課題だと感じた。